

# 2013平和大行進 茨城県内を元気に行進中！

6月27日福島県いわき市から引き継いだ「2013年原水爆禁止国民平和大行進」は、6月28日に元気よく北茨城市を出発しました。7月10日に神栖市から千葉県香取市に引き継ぐまで、県内をくまなく歩き続けています。

水戸市内原では、ちっちゃな二人の子供を連れた若いお母さんが飛び入りで一緒に歩いてくれました。

【下館駅前にて】



【水戸市内原地  
内を行く】



【筑西市役所玄関前  
にての歓迎集会】



【桜川市役所玄関前  
にての歓迎集会】

## 学習も運動も元気にやろう！！

### 石岡平和の会定期総会



石岡平和の会の定期総会が石岡公民館で開催されました。総会に先立ち、県原水協の会長である加藤岑生さんによる「ロングラップ島」（南太平洋マーシャル諸島・アメリカの水爆実験場にあるサンゴ礁の島）の残留放射能に関する視察報告が、映像を中心に2時間余にわたり開催されました。「ロングラップ島」は、60年以上経過しても放射能は下がらず、除染された一部の地域に、かつての住民が移住している様子は、原発事故に逢った福島の今後を重ねざるを得ませんでした。

学習会終了後、2012年度の取り組みの総括、2013年度方針と予算等の議案が提案、協議が行なわれました。最後に役員と県平和委員会の理事4名を承認し、4時過ぎに閉会となりました。参加者は16人でした。（木村・記）

## 東海第二原発の再稼働を許さない！！

### 東海村平和委員会総会



東海村平和委員会の総会が6月22日（土）、東海村舟石川コミセンで開催されました。参加者は10人でした。加藤事務局長が司会、川崎会長が活動報告をしました。

関東唯一の原発立地自治体である東海村の平和委員会は、3.30小森・村上Big対談をはじめ、数回にわたる原発サミット集会、東海駅前での脱原発アクションなど、村内で開催されたさまざまのイベントに、実行委員やとりくみへの協力が確認されました。

討議では、東海第二原発の廃炉を進める運動や憲法「改正」の問題等が取り上げられ、年配の会員から過去の取り組みの経験、若い会員からは活動の中でつかんだ具体的な村民の声などがされました。今年度は、核兵器廃絶と脱原発、憲法「改正」反対の取り組みなどを提起し、了承されました。役員は会長に川崎さん、事務局長に加藤さんを選任しました。（木村・記）

全国から「埋め立てを承認するな！」の意見を送ろう！  
「辺野古埋め立て承認願書」の縦覧はじまる。7月18日まで。

沖縄県は、沖縄防衛庁が提出した「公有水面埋め立て承認願書」を住民に公開する「告示・縦覧」を開始しました。米軍普天間基地を名護市の辺野古に移転する手続きの一つです。7月18日（木）までに3週間、沖縄県内の8ヶ所で一般公開するほか、沖縄県のホームページでも閲覧できます。「願書」は6冊・約8800ページです。

「願書」の計画では、工事期間に5年を予定、土砂は7県9地区から採取し、採取量は約2100万立方㍍、工事費用は2310億8700万円を予定しています。飛行場建設を含む全体の工事費は示していません。

この縦覧に伴い、沖縄県は「利害関係人」の意見を受け付けます。仲井眞弘多知事に意見を送りましょう。利害関係者は法律上の定義がなく、沖縄県民でなくても、誰でも意見を提出することができます。（記載した意見書を郵送しましょう）

歓迎！新入会員のみなさんです。  
よろしくお願いします。

- .....  
○ K.N (男性/匿名) さん (常総市)  
○ 佐藤 正弘 さん (大子町)

\*ともに平和の声をおおきく広めていきましょう！

### 平和新聞

2013年7月5日（金曜日）

2021号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 659  
2013.7/5  
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.piala.or.jp

# 地域の平和の会からの熱い報告！

## [6.16 茨城県平和委員会大会での代議員の発言]



大会の討議には120分確保し、その中で23人の代議員が発言し、議案の内容をより深めました。以下は抜粋です。（文責・木村）

- 守谷では、平和パネル展に市から後援を受けている。市立図書館で開催し、市の広報誌に掲載している。参加者の一人が平和の会に加入了。今後とも市民の中に入って宣伝していく。
- 土浦の平和パネル展は毎年1,000人～2,000人以上の市民が見てくれる。開催中に広島の平和式典に市が派遣して平和大会に参加した市立小中、7校の生徒の報告会もある。映画も上映する。10年以上継続している。
- 常陸大宮では地域の7団体で先日、憲法の学習会をした。事前にチラシを一般紙に織り込み宣伝した。84名の参加者があり、質疑の中で、「これは大変だ」「我々は何をしたらいいのだろう」という声が出された。
- 水戸西では憲法学習会はすでに3回開催し、毎回30名程度が参加している。自民党の「改憲草案」は、知れば知るほど大変な中身だ。学習を深め、話をすればするほど「大変」という声になっている。
- 憲法「改正」反対や平和の問題でも、今までなら我々の手が届かなかつたところからも参加している。
- 毎週金曜日、原発アクションを開催している。100人規模になるとマスコミも取り上げる。平和委員会としても大規模に取り組んでほしい
- 新聞やテレビ等のマスコミに抗議することは大切な運動だ。マスコミでも特定の団体等を無視したような扱いをするに後ろめたさがある。マスコミに視聴者の思いを伝えるのは大切なことだ。みんながやれば変わる。
- 平和行進では各地域で実行委員会が開催され、みんなの力で平和行進の方向で進んでいる。非常に心強い。今年の茨城の平和行進は6月28日～7月10日で、その間に参議院選挙もある。昨年以上の参加を期待したい。
- 满蒙開拓の記念館は、満蒙開拓の正しい姿を後世に伝えようとしている。長野県の那智村と交流しその成果を持って、「本家本元の内原ではどうなのか？」と言う形で運動をしていく。
- 阿見町の予科練平和記念館は予科練の歴史を時系列並べただけの展示という批判がある。戦争に関する展示の見直しの動きがでている。平和勢力が「これなら」という展示のかたちを示して行きたい。
- 百里平和公園のたたかいのパンフレットが、今年の初午まつりに配布された。コンパクトにできていて、特に最後に記載されている年表で、たたかいの動きがはっきり見える。ぜひ普及したい。盆踊りは北海道の矢白別にならった。昨年の開催が初めてだ。多くの若者や女性の参加を得て、100人以上で開催したい。
- 組織の強化と拡大は、車の両輪と言うが新たな前進を進めいくには、組織の再構築と同時に今活動している組織が、どうしたら拡大に進むのかを考えて行くことも重要だと考えている。
- 地域の運動はここ7～8年、9条の会が結成された当時から進んでいる。また脱原発関係の運動が、全国的に立ち上がっていっている。普天間基地の撤去・オスプレイの訓練反対では、沖縄も島ぐるみで反対だ。「全員参加型のたたかい」という形が見えてきている。一般的の市民が集まって、要求を出している。動員型とは全く逆で、脱原発をたたかっている。この流れをキチンとつかんで、多くの人と連帯して取り組むことが特に重要なになっている。
- 九条の会のポスターを購入して家の前に貼った。地域の周りの人と話になった。ポスターは身近に貼るといい。平和ポスターをもっともっと広げたいと思っている。

## [シリーズ] わが街・わが会員

土浦市／井上 仁志さん（土浦平和の会）

### 活動はみんなで 力を合わせて



私たちの町・土浦には多彩な市民運動をおこなう市民団体が多数あります。新日本婦人の会、革新懇、保健生協、年金者組合、憲法九条土浦の会、まちづくり市民の会などです。

毎年恒例の行事や、その時々の行事もありますが、大きな行事はこれらの団体が実行委員会を作つて取り組むことが慣例になっています。例えば憲法記念日のつどい、平和行進、原爆パネル展、原発学習会などです。

今年の憲法記念日の行事は、憲法九条の会が結成八周年を記念して、ペシャワール会の中村哲医師を呼んで講演会を行いました。澤地久枝さんも賛同参加していただき、市民会館の大ホールが入場制限になる1200人が参加しました。

8月の平和月間は今年も原爆展と終戦の日の平和のつどいが計画されています。

## 2013憲法フェスティバルの総括

実行委員会は期間中にチラシ50,000枚、ポスター500枚を配布し、ニュースを発行、水戸市内ポスター貼り宣伝行動、水戸駅宣伝行動に取り組みました。

収入は、縁越金(163,858円)、個人・団体賛同金(1,050,000円)、当日カンペ(149,174円)、書籍や泡盛の販売等があり、総額1,602,271円でした。支出は、宣伝費、出演者謝礼、会場設営、企画関連費、事務費等で総額1,441,414円、来年度へ160,857円繰り越します。

賛同関係は、個人281人、90団体です。各地域の平和委員会は、個人・団体とも、多くが賛同に名を連ねています。

今年度は、組織と無関係で参加した人やチラシを見て参加した人も多く、マスコミに多く取り上げられたことも大きな特徴でした。予定したパンフレットの数から判断すると、1300人以上が参加しました。